

令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	角護展60年の軌跡 - 自然と人間を探る -
日時	令和3年4月2日(金)~12日(月)
会場	米子市美術館 第1室・第2室・第3室・第4室(全室)
実施者(団体)	角護個展実行委員会
補助金額	824千円

境港市在住の洋画家・角護氏が60年間にわたり、それぞれの時代を切り取って制作した作品(147点)をテーマ別に展示した。県内はもちろん、島根、兵庫、大阪、京都等、幅広い地域の方が来られ、年齢層も若い世代(高校生)の姿も見られ、広く絵画に触れてもらうことができた。鑑賞者からは、「大きい作品はもちろんだが、小さい作品までしっかり描きこまれている」、「絵画1枚1枚にその時の情勢が反映されており、とても奥深い作品が多いと感じた」といった感想があった。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	SALON ORCHESTRA in Tottori
日時	令和3年6月27日(日) 午後2時開演
会場	鳥取市文化ホール
実施者(団体)	棚橋 恭子氏
補助金額	274千円

鳥取市出身のヴィオラ奏者棚橋恭子氏が所属し、国内外の第一線で活躍する演奏家8名による指揮者のいない最小編成のオーケストラ「SALON ORCHESTRA 8」によるコンサート。聞き馴染みのある名曲やバレエ音楽などを演奏し、県内バレエ団でバレエを習っている小中学生と共演した。子どもさんも非常に多く来場され、小さなお子さんと来場された方からは、「本格的なコンサートに親子で参加できて嬉しい」といった感想が多くあった。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	記憶と残像 ～藤田英樹 彫刻展～
日時	令和3年7月30日(金)～8月9日(月)
会場	米子市美術館 第4展示室
実施者(団体)	藤田 英樹氏
補助金額	210千円

伯耆町出身の彫刻家藤田英樹氏は、近年は故郷に残る風景や自らの古い記憶、ものや場に宿る記憶をテーマにシリーズ作「記憶と残像」を制作・発表している。本展では1点1点の作品として発表してきた作品を組み合わせ展示することで、展示室全体を山陰の原風景を感じさせるインスタレーション作品として表現した。県西部地区を中心に553名の来場者があり、多くの方に彫刻表現の魅力を感じていただくことができた。コロナ禍ということもあり、YouTube でも展示の様様を配信した。

配信 URL:<https://www.youtube.com/watch?v=yGcS1uSQpB0>



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	イエンヤン・アートプロジェクト
日時	令和3年11月27日(土)～12月19日(日)
会場	用瀬壁ギャラリー(鳥取市用瀬町)、スタジオモイム(岡山県勝田郡奈義町)
実施者(団体)	イエンヤン・アートプロジェクト実行委員会
補助金額	265千円

鳥取県内在住の作家(藤原勇輝氏、林佑樹氏)を中心とした 5 名のアーティスト(彫刻・壁画・写真・ダンス・ランドアート)が、鳥取・用瀬(山陰)と岡山・奈義(山陽)の隣り合う両県の地域を舞台に、「陰と陽」をテーマとして、先鋭化した芸術表現を展開する。鑑賞者からは、「カラフルな巨大壁画など元気をもらった」といった感想が多数あり、また、芸術家を目指している高校生も来場され、「勉強になった」という感想があった。県内作家に発表の場を与えるとともに、県外作家との交流も生まれた。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	2021年度鳥の劇場<いっしょにやるプログラム>「小鳥の学校」
日時	令和4年3月20日(日)・21日(月祝)午後2時開演
会場	鳥の劇場(鳥取市鹿野町)
実施者(団体)	特定非営利活動法人 鳥の劇場
補助金額	361千円

鳥取県内の小学校5年生から中学校3年生を対象に参加者を募集し、他者と関わり合い、作劇の作法を学び、自分たちで上演作品「森は生きている」を作り上げ、発表までを行った。鳥の劇場スタッフが全期間通して子どもたちをサポートし、演出家や俳優たちが講師となって、演技・衣装・舞台美術・音楽・チラシデザインの専門的なアドバイスを行い、発表公演では、演じるだけでなく、音響・照明も参加者が中心となって行った。鑑賞者からは「演者の一人一人が目的や理由を持って演じているように見え、感動した」、「子どもたちが中心となって創られた演劇だと知り、驚きと感動で胸がいっぱいになった」といった感想があった。参加者の満足度は高く、「楽しかった」、「達成感があった」、「自分自身の成長が感じられた」といった感想があった。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【文化芸術探訪事業】

事業名	第14 回全国公募書道展「放哉を書く」
日時	令和3年11月2日(火)～5日(金)
会場	とりぎん文化会館 展示室、ギャラリー集、宝林堂ギャラリー
実施者(団体)	放哉の会
補助金額	450千円

鳥取市出身の自由律俳人、尾崎放哉の句を題材にした書道作品を全国から募集し、239点の応募があり、入選作品など218点を展示した。放哉大賞鳥取県知事賞には、一般の部は北窓妙雲さん(倉吉市)の「ここから浪音きこえぬほどの海の青さの」、高校の部は渡部和花さん(鳥取城北高)の「花火があがる空の方が町だよ」がそれぞれ選ばれた。コロナ禍で作品が集まるかどうか心配されたが、全国からの応募も多かった。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【次世代活動者育成支援事業】

事業名	夏休みミュージカル体験 演目「カエルのおはなし～リターンズ～」
日時	令和3年8月29日(日) 午後1時、午後5時開演(2回公演)
会場	北栄町大栄農村環境改善センター
実施者(団体)	特定非営利活動法人まちづくりネット
補助金額	100千円

県中部地域の小・中学生を対象としたミュージカル劇団を結成し、地元を題材にしたオリジナルミュージカルの体験、発表を行った。鑑賞者からは、「コロナ禍で開催を心配したが、無事に公演でき、感動もひとしおだった」といった感想があった。コロナ対策として鑑賞者の人数を限定したが、地元の有線放送テレビで特集を組んで放映していただいた。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【次世代活動者育成支援事業】

事業名	鳥取ジュニアオーケストラ 第25回定期演奏会
日時	令和3年8月22日(日)午後2時開演
会場	とりぎん文化会館 小ホール
実施者(団体)	鳥取ジュニアオーケストラ
補助金額	100千円

鳥取市近辺在住の小中学生で構成される鳥取ジュニアオーケストラの定期演奏会は、1年間の練習の成果を発表する舞台であり、地域の演奏者との交流にもなっている。今回は25回記念の演奏会であり、改めて弦楽の美しい響きを楽しめるよう、弦楽だけの曲を選んだ。鑑賞者からは、「小学生による可愛らしい演奏から、中・高校生の上級者の演奏と成長を感じることのできる演奏会であった」といった感想があった。感染拡大防止対策により観客を入れて開催できたことは、子ども達にとっても貴重な経験になり、演奏できる喜びが感じられた演奏会となった。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【周年支援事業】

事業名	結成 40 周年記念 米子マンドリンオーケストラ第 36 回定期演奏会
日時	令和3年10月16日(土)午後6時半開演
会場	米子市公会堂 大ホール
実施者(団体)	米子マンドリンオーケストラ
補助金額	100千円

米子マンドリンオーケストラは、マンドリンの魅力を一人でも多くの方に知ってもらいたいと演奏活動を続け、結成40周年を迎えた。記念となる今回の定期演奏会では、1部はあらゆる年代の方に楽しんでいただける選曲、2部は米子市出身のジャズピアニスト松本哲平氏との共演、3部はマンドリンオリジナル曲で構成。鑑賞者からは、「他の分野の方とのコラボはとても楽しみ」、「素晴らしい生演奏が体験できてありがたい」といった感想があった。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【周年支援事業】

事業名	style字遊 第10回記念展
日時	令和3年7月2日(金)～6日(火)
会場	米子市美術館 第2展示室
実施者(団体)	style字遊
補助金額	100千円

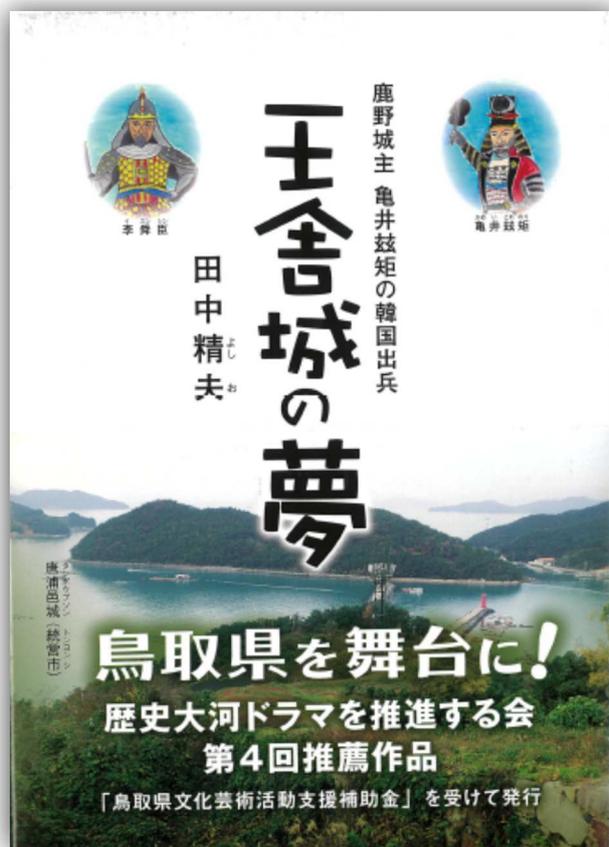
字遊(自由)な発想、字遊(自由)なスタイル(style)で表現された「書」作品の展示会で、20人が52点を出品した。鑑賞者からは、「遊び心があり、読める作品が多く楽しく鑑賞することができた」、「ガイドブックがとても分かりやすく作者のメッセージがよく伝わり、作品を理解することができた」といった感想があった。第10回の記念展で、過去最高の入場者数を記録し、専門家からも高い評価をいただいた。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【刊行物発刊支援事業】

書名	王舎城の夢～亀井茲矩の韓国出兵～
発行年月日	令和3年7月31日
著者名	田中 精夫氏
実施者(団体)	田中 精夫氏
補助金額	300千円

豊臣秀吉の文禄慶長の役(韓国名壬辰・丁酉倭乱)における鹿野藩主 亀井茲矩の業績を調べるため、著者が韓国での足跡や功績について現地調査をした成果を踏まえ、亀井茲矩の韓国出兵を小説で著すとともに、茲矩が訪れた韓国の都市についての現状を紀行文として紹介するなどした。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【刊行物発刊支援事業】

書名	秀吉は御冠山に来たか
発行年月日	令和3年10月1日
著者名	佐々木 靖彦氏
実施者(団体)	佐々木 靖彦氏
補助金額	300千円

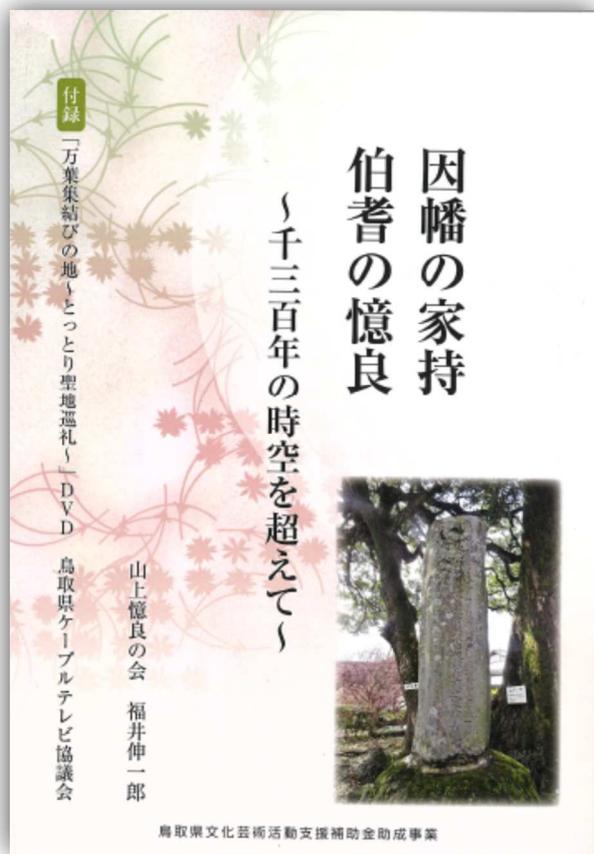
天正9年(1581)10月、鳥取城落城後、羽柴秀吉は高山(湯梨浜町)に着陣し、馬ノ山(湯梨浜町)を本陣とした吉川元春と対峙したが、両者戦わずして別れた。この時、秀吉が着陣した山は従来から御冠山だとされてきたが、最近、「十万寺所在城(跡)」とする説が浮上してきた。両者の対峙に焦点を絞り、関係資料を調査し考察を試みた。その結果、従来からの“御冠山着陣説”の妥当性が示唆された。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【刊行物発刊支援事業】

書名	因幡の家持 伯耆の憶良 ～千三百年の時空を超えて～
発行年月日	令和3年9月1日
著者名	福井伸一郎氏
実施者(団体)	山上憶良の会
補助金額	300千円

万葉歌人大伴家持と山上憶良はそれぞれ因幡守・伯耆守として鳥取県に赴任していたが、その詳細についての調査研究はあまりなされていない。本書は、「令和」の元号に因み、鳥取県における家持・憶良の姿を調査し、二人の関係をまとめ、因幡万葉歴史館や鳥取県の「万葉の郷とっとりけん」の取組と連携し、広く県民に周知し、郷土愛を高めるとともに、全国に「因幡の家持、伯耆の憶良」をアピールすることができる図書となった。



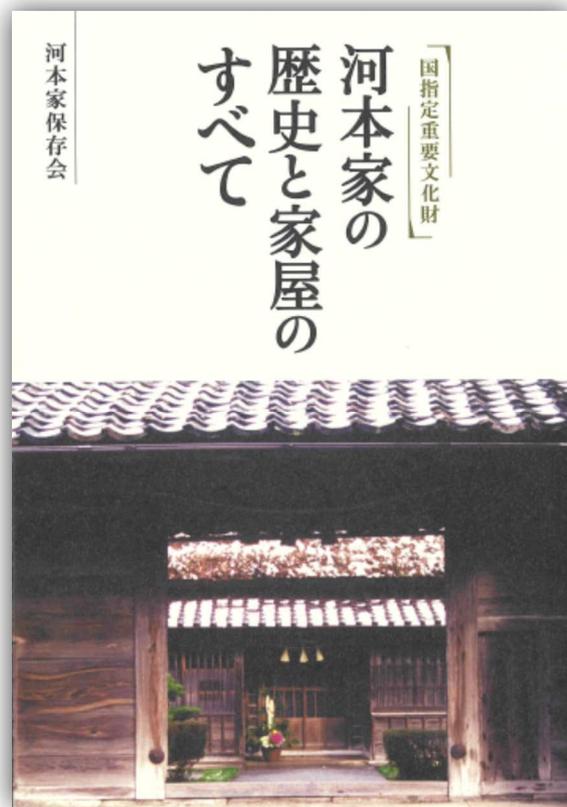
令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【刊行物発刊支援事業】

書名	国指定重要文化財「河本家の歴史と家屋のすべて」
発行年月日	令和3年8月16日
著者名	小谷恵造氏、眞田廣幸氏
実施者(団体)	河本家保存会
補助金額	300千円

河本家は、琴浦町笹津で江戸時代には大庄屋を務めた家であり、河本家住宅は国指定重要文化財となっている。

本書では、小谷恵造氏により、初代当主河本弥兵衛降任から現在に至るまでの河本家の歴史を考証することにより、江戸時代初期からの東伯耆の大庄屋の歴史や役割、生活、文化等を明らかにした。

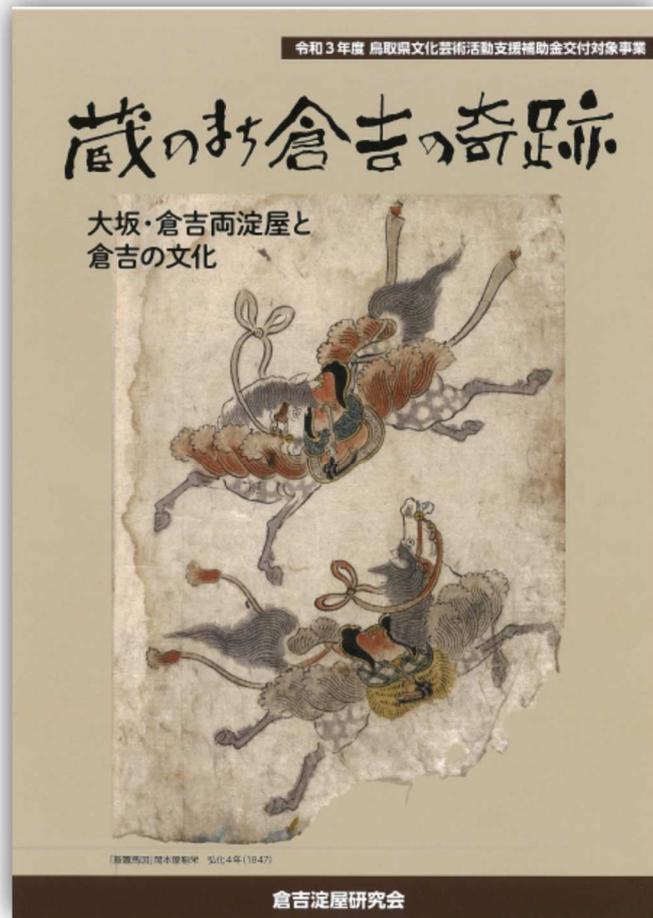
また、眞田廣幸氏により、河本家住宅の主屋、客間、離れと建築年代が違うそれぞれの構造を検証することにより、河本家住宅の持つ歴史的、文化的意義を明らかにした。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【刊行物発刊支援事業】

書名	蔵のまち倉吉の奇跡
発行年月日	令和4年2月20日
著者名	渡邊法子氏
実施者(団体)	倉吉淀屋研究会
補助金額	300千円

江戸時代後期、大富豪であった大阪淀屋四代目重當は時の幕府による關所(財産没収と所払い)を予見し、倉吉に動産の多くを移し、稲扱千刃製造の新ビジネスを始めた。これにより江戸後期の倉吉は繁栄し、多くの文化関係者が育ったが、その一人が岡本屋稲栄である。本書は、倉吉の商工業の発展を支えた絵師であり、商業デザイナーであったにもかかわらず、絵も名前もほとんど知られていない稲栄の仕事を、広く紹介するものである。



令和3年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【映画作品活用支援事業】

事業名	鳥取県を舞台にした自主映画の上映会
日時	令和4年3月20日(日)午後2時、午後6時開演(2回上映)
会場	米子市淀江文化センター(さなめホール) イベントホール
実施者(団体)	Valley Side Company
補助金額	66千円

鳥取県や米子市を舞台にして制作した自主映画2本を上映した。「城」は、米子城を舞台に、米子市の観光地を巡りながらドラマを展開した作品、「さよなら三月、また来て四月」は、鳥取市から松江までの女子大生の卒業旅行を描いたロードムービー。鑑賞者の感想は概ね好評で、地元観光地へ光を当てたことから、「魅力を再認識した」、「コロナが収束したら行ってみたい」といった感想が多かった。地元の人がスタッフ、キャストを兼ね、地元で撮影し、地元の人に鑑賞してもらうという上映会であり、新しい試みを一歩踏み出した。

